

## 羽田空港再拡張を、我が国の航空産業・関連産業の 新たな出発点とする必要があります

＝ 2004～2005 年産業政策提言の策定にあたって ＝

平成 16 年度予算において、羽田空港再拡張の事業化が認められ、新設滑走路などの入札・契約手続、環境影響評価手続、国際線地区の PFI 検討調査等が順次実施され、2009 年の供用開始に向けて本格的に動き始めました。

振り返れば、我が国の航空産業の規制緩和は、「参入制度」「運賃制度」それぞれで進められ、2000 年 2 月の航空法の改正による運賃の自由化、需給調整規制の廃止で、仕組みの上では本格的な自由競争の時代を迎えることとなりました。しかしながら、実態は羽田空港をはじめとした混雑空港の発着容量の制限が、航空会社の自由な路線参入・撤退や増減便、新規航空会社の参入を難しくしており、航空の自由化は未だ不十分な状態にあると言わざるを得ません。

羽田新滑走路の供用により、航空の自由化のボトルネックであった羽田空港における発着枠の制約は当面解消され、我が国の航空産業は新たな転換点を迎えることとなります。

私たちは、これまで日本の航空産業・関連産業の抱える数多くの課題に関し、そこに働く者、利用する者の立場から様々な提言を行ってきました。これらの提言には、機内迷惑行為防止法として既に具現化したものもありますが、空港整備財源、航空行政のあり方、航空保安など、いまだ改革が不十分なものも多く残されています。

安全で良質なサービスの提供をはじめ、日本の国際競争力と航空産業の基盤の強化、日本経済の活性化など、我々が目指す航空産業・関連産業の健全な発展には、山積した課題を一つひとつ解決していく必要があります。

私たちは、課題解決にむけて一刻の猶予も許されない事態にあることを強く認識するとともに、航空産業・関連産業の中期的な絵姿を決定する羽田再拡張の機会を新たな出発点として、改めて本質的な課題を捉え直さなければならぬと考えます。

### 空港整備特別会計の抜本的見直しを行うべきです

現在、空港整備特別会計の財政投融资などからの借入金は 9,000 億円を超えています。羽田再拡張では滑走路事業費 6,900 億円の 70%を借入金とするスキームが予定されており、さらにその借入金が増大します。

このままでは多額の借入金を償還するために利用者・事業者の過度な負担が継続し、現在の空港整備特別会計の枠組を前提とした財源確保は限界であると考えます。



## 行政は裁量権と決別すべきです

私たちは、行政のあり方について、自由競争の時代では「過去の裁量権に固執することなく、事業者の安全監視機能の強化と、市場原理が十分に機能するための環境整備に徹するべきである」と主張をしてきました。

羽田新滑走路の供用を機に、行政は裁量権と決別すべきです。そして、公正な競争環境の整備など行政として最低限必要な対応を行い、日本の国際競争力や経済活性化、航空産業の競争力強化にむけてその役割を果たす必要があります。

## 航空ネットワーク拡充に向けた環境整備を徹底すべきです

国土交通省は羽田再拡張により新規航空会社の参入や運航機材の小型化が進み、国内航空ネットワークの拡充が期待できるとしていますが、具体的な戦略は明確ではありません。

世界的にも突出して高額な公租公課に代表される阻害要因により、そうしたビジネスが採算を得ることは極めて厳しいのが現状です。発着容量が拡大をすれば、自然と小型化が進み地方路線を含めた航空ネットワークが構築され

るわけではありません。

私たちは、あくまでも「市場原理」を大原則としながら、離島などの政策路線については、引き続き着陸料などの減免をはじめとする国の支援措置の拡充や運航乗務員の確保および養成コストの軽減策など、航空ネットワークの拡充に向けた具体的な環境整備が不可欠であると考えます。

## 羽田空港の国際化について十分な議論を行うべきです

新滑走路の供用開始による総発着枠 40.7 万回のうち 3 万回は国際線に振り分けるとしています。

私たちは、空港容量・需要動向などの環境変化も踏まえ、羽田は国内線需要、成田は国際線需要への対応を基本としつつも、より柔軟にその機能を相互補完し、両空港を最大限活用すべきと主張してきましたが、さらに観光立国を謳う我が国として VISIT JAPAN CAMPAIGN

(VJC) を踏まえた国際旅客需要の増大や、将来の国内旅客需要の推移などを十分に勘案する必要があります。

羽田空港の国際化を考えるうえでは、羽田・成田を一体として内陸航空需要への対応をいかに図るかという視点に立ち、事業者、利用者、そして働く者が参加をして国民的な議論を深めていかなければなりません。



出典：国土交通省「航空政策を展望する」